

ダイズ病害虫防除対策（7月）

1 ベと病

- （1）本病は、降雨の多い6～7月と9月に多発します。葉表に黄白色の不整形病斑が発生し、病斑の裏には淡灰色の綿毛状の菌叢ができます。発生が多いと生育抑制や落葉がみられ、減収の原因となります。
- （2）「里のほほえみ」など罹病しやすい品種では、生育初期から発生がみられるので、密植や過繁茂で通気性が悪くなり、湿度が高くならないように注意してください。
- （3）薬剤防除は、発生初期から7～10日おきに数回実施してください（表1）。

表1 ベと病の防除薬剤

薬剤名	有効成分名	FRAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度	本剤の 使用回数	使用方法
アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン	11	収穫7日前まで	2,000倍	2回以内	散布
ライメイフロアブル	アミスルブロム	21	収穫7日前まで	2,000倍	3回以内	散布
ランマンフロアブル	シアゾファミド	21	収穫7日前まで	1,000～ 2,000倍	3回以内	散布
リドミルゴールドMZ	マンゼブ	M03	収穫45日前まで	500倍	3回以内	散布
	メタラキシルM	4				

注1）使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

注2）フロアブル剤、水和剤は10a当たり100～300L散布する。

2 ウイルス病（褐斑粒）

- （1）アブラムシ類が本病原ウイルスを媒介するため、アブラムシ類の防除を行ってください。
- （2）生育中にモザイク症状や萎縮症状を確認したら速やかに抜き取り、ほ場外で処分してください。

3 アブラムシ類

- （1）ジャガイモヒゲナガアブラムシは、わい化病の病原であるダイズわい化ウイルスを媒介することがあります。ダイズアブラムシやマメアブラムシは、多発すると葉に黄色の吸汁痕が多くみられ、葉の萎縮などが発生します。
- （2）わい化病が発生したことのあるほ場では、有翅虫飛来初期から薬剤防除を行ってください。それ以外のは場では、葉に黄色の吸汁痕が目立つ場合は防除を行ってください（表2）。

表2 アブラムシ類の防除薬剤

薬剤名	有効成分名	IRAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度 (散布液量)	本剤の 使用回数	使用方法
エルサン乳剤	P A P	1 B	収穫7日前まで	1,000～ 2,000倍	2回以内	散布
オルトラン水和剤	アセフェート	1 B	収穫60日前まで	1,000倍	3回以内	散布
ダントツフロアブル	クロチアニジン	4 A	収穫7日前まで	2,500～ 5,000倍	3回以内	散布
マラソン乳剤	マラソン	1 B	収穫7日前まで	1,000～ 3,000倍	3回以内	散布
オルトラン水和剤	アセフェート	1 B	収穫60日前まで	16倍 (1.6L/10a)	3回以内	無人航空機 による散布

注1）使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

注2）地上散布の乳剤、水和剤、フロアブル剤は10a当たり100～300L散布する。

注3）オルトラン水和剤は使用時期が収穫60日前までなので、使用時期に注意する。

4 マメハンミョウ

- (1) 本種の成虫は、7月から8月にかけて出現し、群れで葉を食害します。発生が多いと葉が食い尽くされることがあります。
- (2) 食害が目立つ場合は、薬剤防除を行ってください(表3)。

表3 マメハンミョウの防除薬剤

薬剤名	有効成分名	IRAC コード	使用時期 (収穫前日数)	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
マ ラ ソ ン 粉 剤 3	マ ラ ソ ン	1 B	収穫7日前まで	3 kg	3回以内	散布

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

5 ウコンノメイガ

- (1) 本種の幼虫は、7月下旬頃から発生し、葉を円筒状に巻き食害します。多発すると登熟に影響します。
- (2) 葉色が濃く、株が繁茂しているほ場では、被害が大きくなる傾向にあり、ほ場によって発生状況が異なるため、よく確認してください。
- (3) 葉巻の発生が目立つ場合は、若齢幼虫の多い7月下旬～8月上旬に薬剤防除を行ってください(表4)。

表4 ウコンノメイガの防除薬剤

薬剤名	有効成分名	IRAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度	本剤の 使用回数	使用方法
ス ミ チ オ ン 乳 剤	M E P	1 B	収穫21日前まで	1,000 倍	4回以内	散布

注1) 乳剤は10a 当たり100～300 L 散布する。

注2) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

※農薬の登録内容については慎重に校閲していますが、登録内容の変更は随時行われています。また、同じ農薬名でも農薬会社によって登録内容が異なることがあります。農薬登録情報提供システムホームページ(<https://pesticide.maff.go.jp/>)等で最新の登録内容を確認してください(記載中の登録内容は令和7年7月10日現在)。